

特別支援学校における 「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けた授業改善 ～「単元構想シート」Q&A編～

本リーフレットでは、「単元構想シート」を活用した授業改善の有効性や活用についての疑問や不安、悩み、効果等について、実践研究校（諫早東特別支援学校、長崎大学教育学部附属特別支援学校）での検証をもとに、Q&A形式で紹介します。

○「単元構想シート」を書く前は



単元をデザインする？

デザインを考えることで授業が変わる？
授業改善につながる？



○「単元構想シート」を書くと

 学習活動の配置や時数を検討しやすくなりました！

忙しさに追われて、教育課程表に記載されている題材名だけを確認して授業を計画することもあったのですが、何を目的としてその題材を学ぶのかを明確にすることで、内容や時間のまとまりで、学習活動の配置や時数を検討しやすくなりました！



 ねらいを明確にした学習活動を計画できるようになりました！



話し合い活動を行うことだけを目的としたものでなく、自分の考えを広げ深めるための対話的な学びを意図した場面を効果的に設定できるようになりました！



実践研究校の先生方の声を吹き出して紹介していますので、ぜひ参考にしてください。



Q 「内容や時間のまとまりの構成をデザインする」とは、具体的にどのようなことですか？

A 次のような項目を明らかにしながら、内容や時間のまとまりの中で、習得・活用・探究という学習活動をどう配置し、組み立てていくかを検討していくことです。
「単元構想シート」は各項目を検討しながら授業をデザインするツールになっています。

実態を把握する	目標を設定する	指導の計画を立てる
単元に関する既習事項の定着度	学習指導要領における位置付け	単元を通じた手立ての工夫
児童生徒の興味・関心	学校教育目標	各学習時間での児童生徒の姿、教師の働き掛けの意図の明確化
生活経験の程度	目指す児童生徒の姿	児童生徒が考える場面と教師が教える場面の明確化
障害による学習上の困難	教科等の目標	主体的に学習を見通したり、振り返ったりする場面の設定
予想されるつまずき	単元で育成する資質・能力	自己の考えを広げ深めるための対話的な学びの場面の設定
	教科等における見方・考え方	知識を相互に関連付けながら自ら考える場面の設定
	単元における見方・考え方	障害による学習上の困難に対する手立ての工夫
		教科等の横断的な視点で関連した内容の確認
		評価の観点と評価方法、場面の設定
		内容や時間のまとまり、配列や時数設定



💡 評価の視点がより明確になりました！

項目の一つ一つを確認していくとなると、準備がとても大変だと思っていたのですが、最初にこれらを確認して単元のデザインを検討しておく、授業が計画どおりに進むようになり、負担が増えたとは思いませんでした。また単元の中で、学習状況を見取る場面や視点も明確になりました。



Q 「単元構想シート」を書くと、どのようなメリットがありますか？

A 今後、「教科等の内容」を活用して未来社会を切り開くための資質・能力を育成することが求められます。そのための、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に必要な情報を整理することができます。

💡 単元の目標をより意識するようになりました！

単元名や学習内容だけでなく、何を目標としてその単元を学習するかを確認しておくことが大切であることを再認識できました。



💡 頭の中が整理できました！

単元を構想する際に確認が必要ながたくさんありますが、頭の中を整理するツールとして活用できました。

単元構想シート	
学部・学年	小学部・3年（知的障害 小学部1段階）
教科・単元名・時数	体育・ゆれてあそぼう・7時間
1 児童生徒の実態	
教師がそばで見守る中で、独歩ができる児童や教師の援助を受けてあぐら座位や椅子座位を保持することができる児童が在籍している。これまでにボールプールに入って体を動かしたり、バランスボールに乗って揺れたりする学習に取り組んでいる。	
2 単元の目標（①知識及び技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性等）	
①トランポリンやブランコを使って、教師と一緒に体を動かすことができる。 ②トランポリンやブランコを使って体を動かすことの楽しさや心地良さを表情や体の動きで表現することができる。 ③笛の合図や「せーの」の言葉掛けを聞いて、期待して笑顔を見せたり体に入力を入れて身構えたりすることができる。	
3 単元における見方・考え方	
トランポリンやブランコを使って体を動かすことに楽しく取り組み、いろいろな動きや揺れを経験して自分の好きな動きに気付いたり見つけたりする。	

💡 教科や領域の区別が明確になりました！

特に、障害の程度が重度である児童生徒の授業では、感情や意思の表出に注目するあまり、笑顔が見られたか、楽しそうだったかだけに着目したり、自立活動との区別があいまいになってしまったりしていましたが、最初に目標をしっかりと確認することで評価の視点が明確になりました。



💡 児童生徒の学びの姿を想定することができるようになりました！

関連付けたり、熟考したりしている姿を想定して、そのための手立てや授業の流れを計画することができるようになりました。



💡 共通理解がスムーズになりました！

チーム・ティーチング等、複数の指導者で授業を行う際に、共通理解を図るツールとして使うことができました。

💡 授業研究の資料として活用しました！

授業研究会の資料として活用すると、協議の視点が明確になりました。



💡 次年度への引継ぎに活用しました！

次年度以降も活用できるようにするために、作成した単元構想シートは教科別にファイリングして保存するようにしました。



💡 カリキュラム・マネジメントの資料として活用しました！

教育課程を検討する際の資料として活用することができました。

Q 「単元構想シート」を書いてみましたが、授業改善のプロセスや必要な要件があるのでしょうか？

A 「単元構想シート」は、内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えるためのツールであり、書くことを目的としたものではありません。手書きやメモ書き程度でもかまいません。頭の中を整理するためのツールとして活用してください。最初から完璧を目指さず、とにかく書いてみましょう。

5 単元計画

題材名	時数	学習する主な内容	主体的・対話的で深い学びを実現するための指導上の工夫	評価の観点		
				知・技	態・情・表	主
分数の意味	1	・分母と分子のしくみ	・単元の最初に分数の加減法を学ぶことについて見直しをもたせ、中学部2段階で学んだ分数の意味や表し方について振り返る場面を設定する。また、整数や小数の加減法と分数の加減法の違いを予想する場面を設定する。	○		○
分数の表し方	3	・単位分数をもとにした分数の大きさ ・分数の大小	・水の量や長さなど身近な物を例にして、単位分数あたりのいくつ分かで大きさを把握したり、比較したりする。 具体物を操作する時間がもう少し必要	○	○	
分数のたし算、ひき算	2	・同分母の分数のたし算 ・同分母の分数のひき算	・話し合いや発表を通して他の生徒のいろいろな考え方に触れる機会を設ける。 ・形式的な手続きでの計算になっていた場合には、前時の振り返りを行う。	○	○	
分数の計算の活用	1	・同分母の分数のたし算、ひき算の文章問題	・分数の計算が日常の生活にも使えることに気付くことができるよう問題を工夫する。 ・異分母の分数のたし算やひき算はどのように考えることができるかについて考える。			○

💡 見直しをして上書きしていききました！

授業を進める中で、見直しが必要な場合は、最初に記入したものに赤ペン等で加筆修正しながら活用しました。赤ペンで真っ赤になることもあり、最初とずいぶん変わったものになったこともありました。



Q 生活単元学習の「単元構想シート」の目標の書き方を教えてください。

A 生活単元学習は、各教科等を合わせた指導の形態です。合わせる教科等の段階・内容を明確にして、それぞれの目標を設定する必要があります。また目標を達成する過程において働かせる「見方・考え方」についても、それぞれにおいて想定する必要があります。目標や見方・考え方の表記については、各学校において略案等と関連を図りながら工夫してみてください。

💡 学習内容を自信をもって計画することができるようになりました！

これまで、この学習内容や活動でいいのかと不安を感じることがありました。でも単元構想シートを書くようになって、どの教科とどの教科を合わせて指導するのかを明確にして目標を設定することで、教科の内容を意識して学習内容を計画することができるようになりました。



💡 児童生徒の成長の様子や学習状況を見取る視点が明確になりました！

教科等を合わせた指導においては、単元構想シートを書くことで、その時間の児童生徒の成長の様子を見取る視点と各教科の学習状況を見取る視点をどの活動・場面にするかを構想するために有効に活用することができました。



Q 「単元における見方・考え方」を記入する際に、参考になるものを教えてください。

A 学習指導要領解説が参考になります。各教科の特質に係る見方・考え方を確認し、単元における見方・考え方を想定します。知的障害者である児童生徒が学ぶ教育課程における学習内容であっても、準ずる教育課程に対応している内容については、小・中学校の教科書や指導書も参考になります。

 **学習指導要領解説にヒントがありました！**

知的障害小学部1段階、2段階の学習内容における「単元における見方・考え方」を具体化することが難しいと感じていましたが、学習指導要領解説を読み込むことによって解決できました。



「単元における見方・考え方」を検討する際に、児童生徒が見方・考え方を働かせていない姿も想定しました。そうしたら、見方・考え方を働かせている姿がより明確になりました。



単元構想シート	
学部・学年	小学部3年（知的障害 小学部1段階）
教科・単元名・時数	国語科「言葉のひびきを楽しもう」全10時間

1 児童の実態

- 教師が選択肢を提示すると、表情を変えて選択したり、手を動かして選ばうとしたりする。
- 友達の声や、教師の繰り返す言葉などには、声を出したり表情を変えたりする。
- 提示したもののやんへの注意が向きにくいなど配慮を必要とする児童や聴覚活用が困難な児童もいる。

＜学習面＞

- 「聞くこと」については、教師からの呼名に気付けて視線を向けて声を出そうとする児童、聴覚の活用は困難だが、教師からの話し掛けに笑顔で応じることができる児童、特定の声や音に笑顔になったりして楽しむ児童がいる。
- 「話すこと」については、決まった流れのやりとりに教師の促しで口を開けて声を出そうとする児童、やりとりの場面でスイッチを押して応じることができる児童、「アー」「ウー」などの声を出そうとする児童はあるが、やりとりの場面で意図して自分で声を出すことが困難な児童がいる。
- 「読むこと」については、絵本を示すと、自分の好きな場面の前に期待する表情をする児童、教師の声を手掛かりに絵本や教材に視線を向けることがある児童がいる。

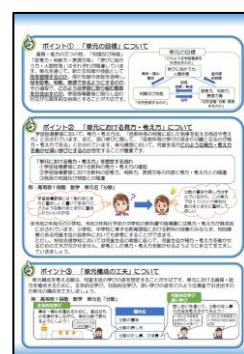
2 単元の目標

- 擬音語を聞いて、言葉の響きや音の違いから、言葉が表している物事に気付くことができる。＜知識及び技能＞
- 擬音語が示す言葉をイメージして、表情を変えたり、身体を動かしたり、言葉を聞いてそれが示す教材に視線を向けたりすることができる。＜思考力、判断力、表現力等＞
- 擬音語に注意を向けて聞こうとしたり、教材に触れようとして、言葉が表す活動に期待する表情をしたりする。＜学びに向かう力、人間性等＞

3 単元における見方・考え方

擬音語の言葉の響きやリズム、音の違いに着目して、言葉が表している状態のイメージを膨らませる。

「単元構想シート」については、記入する際のポイントや活用例を紹介したリーフレットや記入例、「単元構想シート」の様式が長崎県教育センター学校支援サイト「玖島の杜」の特別支援教育研修部の部屋からダウンロード可能です。当センター講座で案内するID、パスワードを入力してご利用ください。



また、県教育センターでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために、リーフレットNo.1～No.4を発行しています。県教育センターのWebサイトからダウンロード可能です。こちらも参考にしてください。

No. 1

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえて～

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは、指導方法の改善や学習形態の工夫にとどまらず、児童生徒に求められる資質・能力を育むという観点から、学びの在り方そのものを問い直すことです。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する学びの過程のイメージ

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、児童生徒が各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることが必要です。

子どもの学びと成長を促す
長崎県教育センター
Nagasaki Prefectural Education Center 平成29年4月

No. 2

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 No. 2

1 なぜ「主体的・対話的で深い学び」が必要なのだろうか？

これから生きる児童生徒に必要な資質・能力を育む必要があるからです。

新学習指導要領では、資質・能力を三つの柱に整理し、これらを踏まえて学校教育目標を明確にすることと述べられています。

評くは2へ

新中学校学習指導要領解説編(第1巻・2) (抜粋)

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえ、各学校の教育目標を明確にする…

育成したい資質・能力を育むために、各教科等では、授業改善をどのように進めればよいのだろうか？

評くは3へ

「主体的・対話的で深い学び」を実現する学びの過程のイメージ

子どもの学びと成長を促す
長崎県教育センター
Nagasaki Prefectural Education Center 平成30年4月

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、基本的な考え方を知ることができます。

各学校で目指す資質・能力の設定から、各教科の授業実践までの道筋を学べます。

No. 3

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 No. 3
～見方・考え方を働かせるために～

1 (1) 「主体的・対話的で深い学び」と「見方・考え方」は、どのような関係にあるのだろうか？

「深い学び」の鍵となるのが、「見方・考え方」です。

学習指導要領解説 総論編 には、次のような記述があります。

各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることで、資質・能力の三つの柱につながる学びが実現します。

教師は、教材研究を行い、専門性を発揮することが求められます。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、児童生徒の「見方・考え方」を働かせることが必要です。

1 (2) 「見方・考え方」を働かせるとは、どのようなことを言うのでしょうか？

教師の意図的な働きかけにより、子供が「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか」が明確になることです。

子供は、生活の中で様々な「見方・考え方」を自然に働かせています。授業においても、教師の働きかけに応じて子供は、様々な「見方・考え方」を働かせるようになります。

教師が働きかける「見方・考え方」は、授業の目的や内容に応じて、子供が「見方・考え方」を働かせることが必要です。

評くは2へ

小・中学校、特別支援学校のそれぞれで、特別支援学校の「見方・考え方」を働かせるための工夫が示されています。

子どもの学びと成長を促す
長崎県教育センター
Nagasaki Prefectural Education Center 平成31年4月

深い学びの鍵である「見方・考え方」を働かせる授業構想で大切なことについて、知ることができます。

No. 4

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 No. 4
～学校全体で授業改善を進めるために～

県教育センターでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために、リーフレットを発行しています。

No. 1 No. 2 No. 3

今日は、授業改善を学校全体で推進するための取組について、リーフレットと併せて紹介します。

授業改善を進めるための取組

県内の各学校で、これまで地道に取り組まれている実践は、主体的・対話的で深い学びの実現に大いに貢献しています。授業改善を学校全体で推進している学校では、教職員一人一人の授業改善の取組を、視覚的に共有し、協働が図られています。

授業研究の視点を共有し、単元時間の授業について協議する取組 p2～3

授業研究の視点を共有し、単元の構想について協議する取組 p4上段

授業研究の視点を共有し、単元の構想について協議する取組 p4下段

多くの学校で授業改善を中心とした取組が進められています。各校の取組と照らし合わせ、学校全体で、包括的に授業改善を推進することができるようになることが大切です。

県教育センターでは、研修講座に加えて、学校のニーズに合わせた出前型研修を実施しています。

子どもの学びと成長を促す
長崎県教育センター
Nagasaki Prefectural Education Center 令和2年4月

授業改善を学校全体で推進する取組について知ることができます。

<https://www.edu-c.news.ed.jp/>

